

久保田 信¹: 南方系植物果実複数種の和歌山県白浜町番所崎への稀な漂着記録

Shin KUBOTA¹: Rare stranding record of several species of tropical fruits on Bansho-zaki, Shirahama in, Wakayama Prefecture, Japan

和歌山県西牟婁郡白浜町番所崎の付け根の両側にそれぞれ数100mの距離で伸びる砂浜（通称、“北浜”・“南浜”）に、2003年9月21日に4種4個の南方系の果実が漂着した。過去13年間での番所崎周辺海域への南方系果実の漂着の報告は、年間に、多い時でもわずか数個ほどしか発見されないゴバンノアシ（久保田ほか 1999）と合計3個だけ発見された細長い型のココヤシの例（桎山ほか 2003）があるのみで、この日のように“北浜”（33°41'N, 135°20'E）だけで3種が一度に漂着したのは初めてであった。9月7日から19日まで毎日1回、北浜で片道約300mを最低1往復して調査したが南方系果実の漂着はまったく確認されていなかった。ところが、折からの台風の影響で9月20日に調査できなかったものの、上記のように21日に北浜で記録すべき漂着があり、台風の影響も幾分収まり、北浜、南浜（約270m）、および番所崎全域（幾つかの磯浜をあわせて一周約900m）で調査が行えた9月22日と23日には、新たな果実の漂着があった。本報告は、台風15号通過直後の連続3日間（2003年9月21—23日）の番所崎全域と北浜および南浜での調査結果を、新記録の種については、これまで発見されたものも付記してまとめたものである。また、このような漂着と黒潮の紀伊半島への接近や白浜町における風向と風速との関連についても分析した。

(1) 2003年9月21日の漂着

9月には、この日に初めて南方系果実の漂着を確認した。台風15号の紀伊半島への接近に伴う悪天候のため、北浜と南浜だけの調査となったが、複数回実施した。その結果、ホウガンヒルギ *Xylocarpus granatum* Koenig 1個とアダン *Pandanus tectorius* Parkinson 1個の漂着を午後北浜で確認した（Fig. 1: 1, 4）。この2種は、番所崎周辺海域への南方系生物の漂着としては未報告であるものの、アダンは、瀬戸臨海実験所元文部科学技官の桎山嘉郎氏や著者が、本年にはごく少数だが採取している（桎山、私信；久保田、未発表データ）。他には、南方系果実中、当該海域に最も頻繁に流れ寄る通常の丸い型のココヤシ *Cocos nucifera* L. を塚本尚司氏が北浜で午後に発見した。

“南浜”ではゴバンノアシ *Barringtonia asiatica* (L.) Kurz. 1個を林 美正氏が朝に発見した。このゴバンノアシには1箇所大きな穴があき、中の種子は脱落していたが、その空洞部分に蔓脚類のエボシガイ *Lepas anatifera* Linnaeus が多数付着していた。日の入り前には比較的新鮮なココヤシが半分に切断された片方のもの（附近に最近持ちこまれたもの？）を発見した。

北浜と南浜をあわせてこのように計4種3.5個の南方系の果実が、紀伊半島南部を台風15号が通過した直後に流れ着いたことになる。なお、9月21日直前の調査は、北浜だけの9月19日のものなので、この日の記録は最長2日間での漂着となる。

(2) 2003年9月22日の漂着

北浜でホウガンヒルギ属の1種 *Xylocarpus* sp.（ニリスホウガンヒルギ？）2個（1個は穴があき空洞になっていた）とモモタマナ *Terminalia catappa* L.（コルク層が露出）2個を採取した（Fig. 1: 2, 3; 5, 6）。ニスリホウガンヒルギ？も上述のホウガンヒルギと同様に今回が当該海域への初漂着報告となる。なお、この日の南浜や番所崎全域では南方系果実の漂着は見られなかった。

(3) 2003年9月23日の漂着

北浜、南浜、および番所崎全域での調査結果、昨日と同様にコルク層が露出したモモタマナ2個が番所崎に漂着していた。

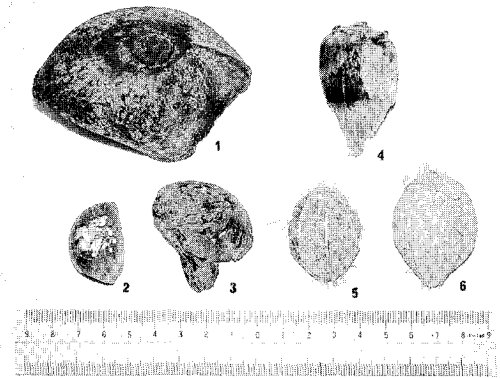


Fig. 1. Four species of tropical fruits that rarely stranded on the beach of Bansho-zaki at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan. 1: *Xylocarpus granatum* Koenig. 2, 3: *X. sp.* 4: *Pandanus tectorius* Parkinson. 5, 6: *Terminalia catappa* L.

ホウガンヒルギ（インド、マレー半島、太平洋の諸島、ニューカレドニアの海岸や河口周辺、マングローブ湿地に生育）、モモタマナ（沖縄以南の東南アジアや南太平洋諸島の海岸に生育する高木）、アダン（口之島以南の琉球列島および熱帯アジア、ミクロネシア、ポリネシアなどの太平洋上の島々に生育）およびニスリホウガンヒルギ？（中西 1990；石井 1999）の漂着は番所崎周辺海域では珍しく、この海域への漂着記録として既に報告済みのゴバンノアシ（久保田ほか 1999）やココヤシ（桎山ら 2003）も含め、今回5種が数日のうちに“台風の贈り物”として漂着した。南方系生物の漂着調査を著者よりも以前から実施している瀬戸臨海実験所の田名瀬英朋助手や桎山嘉郎元文部科学技官によると、ホウガンヒルギやニスリホウガンヒルギ？はこれまで確認したことがないが、モモタマナは1個だけではあるが、1990年9月26日に、台風の後、桎山嘉郎氏により発見されており（桎山、田名瀬、私信）、また本年に既に9月17日に1個が北浜に漂着したのを発見した（久保田、未発表）。従って、ホウガンヒルギ類2種だけが当該区域での初発見であり今回が初報告となる。

以上のような複数種の果実の漂着が見られたのは、南方からはるばると黒潮によって運ばれてきたこれらの果実が、折からの台風による強風（気象庁電子閲覧室 <http://www.data.kishou.go.jp/>）によると、9月20日と9月21日は、それぞれ北北西の風が最大風速7 m/s、6 m/s）によって番所崎や北浜や南浜などの各所に吹き寄せられたのであろう。黒潮はここ数年は紀伊半島によく接近しているので（海上保安庁海洋速報&海流推測図 <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAIYO/qboc/index.html>）、海面を漂流している生物が今回のように多種多数漂着する機会が与えられているものと推察される（久保田 2003参照）。

ところで、著者は、本年8月29日に北浜で（9月1-4日は調査せず）、田名瀬英朋氏は、本年9月3日に南浜で、それぞれゴバンノアシを1個ずつ発見した。このことは、8月の下旬には既に番所崎沖に熱帯域の果実が漂流する外洋水が接近していたといえる。そして、それらの漂流物が、今回の台風で生じた強風の吹く方向と合致して番所崎や北浜、南浜の海岸に漂着させられたのだろう。

謝 辞：果実を同定して下さった長崎大学の中西弘樹博士に深謝致します。また、貴重な御意見や情報を下さった瀬戸臨海実験所の田名瀬英朋助手と桎山嘉郎元文部科学技官に深謝致します。9月21日の午後に漂着物とともに観察・採取した「歩む会」会員の皆様、とりわけ、今回の臨海実習の世話人の谷村英紀氏はじめ果実を発見された塚本尚司氏と林 美正氏に感謝致します。

引用文献

- 石井 忠 1999. 新編 漂着物辞典. 380pp.+11pp. 海鳥社, 福岡市.
 桎山嘉郎・久保田 信・戸部 博・中西弘樹. 2003. 変わった型のココヤシの和歌山県白浜町番所崎への漂着記録. 漂着学会誌 1: 30-31.
 久保田 信. 2003. 和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”へ漂着した大形クラゲ類の季節変化. 漂着学会誌, 1: 21-24.
 久保田 信・田名瀬英朋・桎山嘉郎. 1999. 和歌山県田辺湾に漂着したゴバンノアシ（サガリバナ目, サガリバナ科）. 南紀生物, 41(2): 129-130.
 中西弘樹. 1990. 海流の贈り物. 254pp., 平凡社, 東京.

¹ 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 ¹ Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan